

## エネルギーがあるのは当たり前？

栃木県立宇都宮工業高等学校 電子情報科 2年  
矢野 恵大

世の中には二種類の人しかいない、エネルギーの大切さを分かっている人といない人だ。そして私は中学2年生までは後者だったが、中学3年生の時に前者の考えになる出来事があった。

その当時の私はエネルギーがあるのは当たり前で、「エネルギー問題とか言うけどなんだかんだ言ってもどうせなくならないだろう」と思っていた。だがある頃に、その当時私の担任の先生が「当り前の反対の言葉は何か知っているか？」と私を含めたクラスみんなに質問してきたのだ。私は答えようと考えたが全く分からなかった、そもそも当たり前が前提にある私の頭ではいくら考えても答えられなかったのかも知れない。そう考えている間に私の隣の席の人が手を挙げてこう言った。「先生！当り前の反対の言葉はありがたいです。」と、すると先生は「正解」と笑顔で言った。私はその瞬間、衝撃を受けた。なぜならありがたいと生きていて一度も思ったことがなかったのである。常に私は、喉が渴いたら水を飲んだり、お腹が空いたら何か食べたり、暗くなったら電気をつけたりするのはすべて当たり前だと思っていたからである。私はその日居ても立っても居られず、私は家のパソコンでエネルギーについて調べた。そして私は驚いた、今の日本の電気エネルギーの約半分が火力発電で作ったものだったのである。火力発電のもとには化石燃料なので、限りがありいずれ尽きるということである。私はこの電気エネルギーの現状を見て、今までの自分の行動をとて馬鹿だと思ってしまう。今までの私は有限のものを何も調べずに無限にあると決めつけ無駄に消費していたのである。当たり前は実はありがたいものだ気が付いた私は、無駄な消費をしないように省エネを心掛けた。部屋を出るときはたとえ数分だとしても電気を消し、充電器など一時的しか使わないものは使い終わったらコンセントから抜き、暑い日でもエアコンは使わず扇風機で我慢するなど、様々な省エネをするようになった。そうしたことで家の電気代が僅かだが安くなったのである。私は今までやってきたことが目に見えた結果として現れたとき、とてもうれしくなりこれからも続けていこうと思った。

私はこの出来事があったおかげでエネルギーのありがたみや、省エネの重要性、当たり前なのは自分達だけで他の人から見たらありがたいことなのだということが再確認することができました。そして残念なのが初めに言った通りに、エネルギーの大切さを分かっている人がまだ少なからず居ることです。だから私たちはまだ分かっている人たちに省エネをすることを呼びかけ、自分達の後の世代の人たちにエネルギーを繋いでいくことが役割であり使命なのだ。